

小精廬日誌

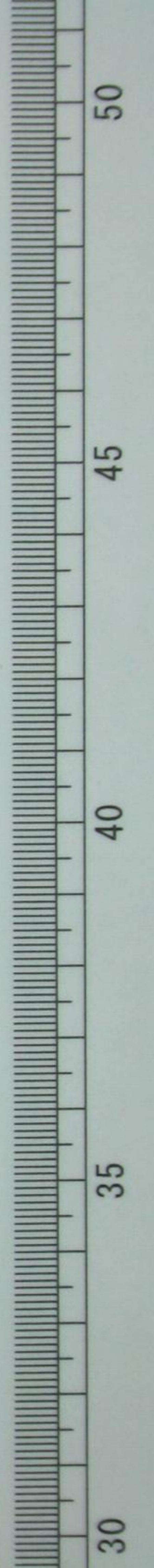
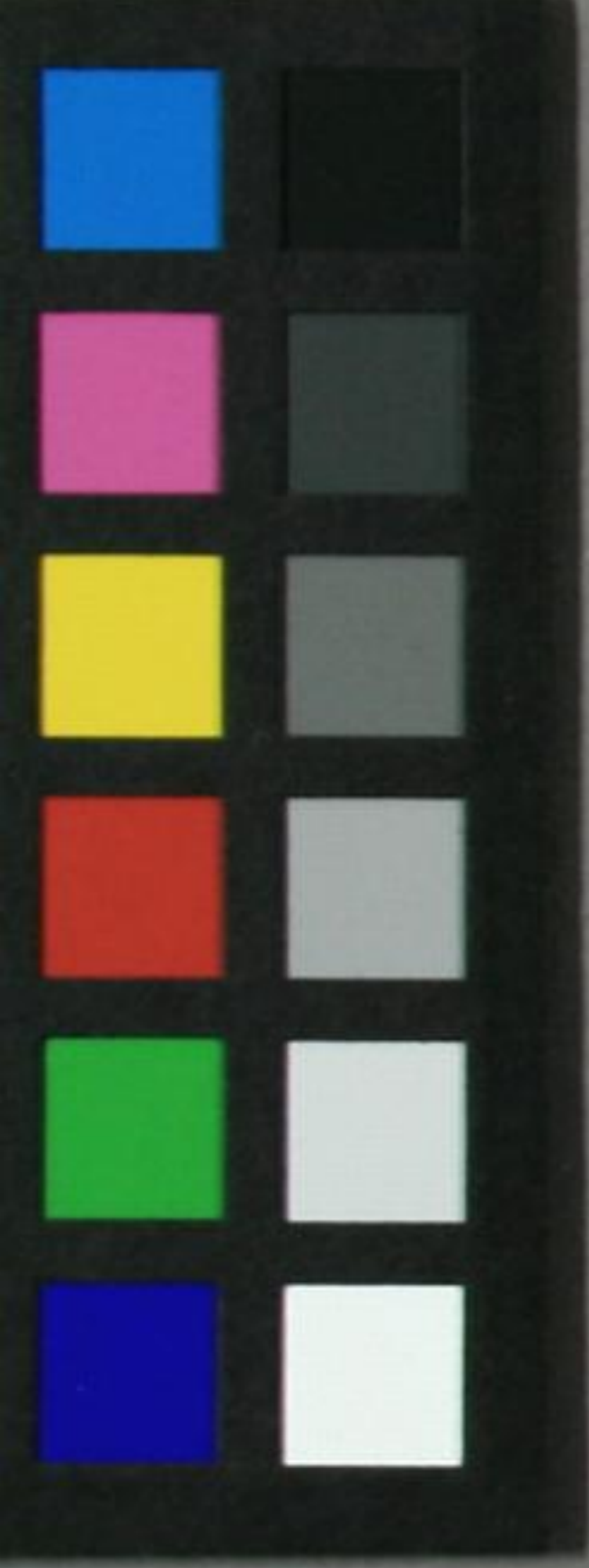
昭和五年六月以降

特別

14

1919

609



小栴庵日志

昭和五年六月以降

六月

一日

日

頃昨夜三時激震あり、壁より利矢吹落り
 二つありしに、此中尾の澤村山邊に
 二つありしを、今日大掃除せしむ共、雨
 生命保険より、井田八十、梨合、祝金と
 住友信託會社より、老若同額計金

利子二万三千九百八十圓、銀取、宇尾町
滋、と、菓子と定めて、内田、来、梅、
午後、数、果、一、二、山、を、歸、い、牛、を、に、飯、
ゆ、い、る、

二日

西、中、の、幹、事、店、本、義、堂、中、の、決、算、結、算、に、
来、梅、が、ン、ジ、ー、の、係、を、後、に、高、橋、治、を、と、来、梅、
が、係、を、執、法、七、時、を、移、す、午、後、四、時、に、来、梅、
が、係、を、兼、責、今、夜、亦、果、取、来、梅、に、出、股、部、

榛原製

主人と、印刷、分、社、の、幹、部、を、招、飲、

三日

成、漫、交、入、の、籍、の、工、合、を、と、り、出、場、の、義、一
に、出、席、を、要、す、三、美、友、の、も、来、梅、植、木、を、
二、尺、程、の、線、を、描、き、為、の、十、五、の、旋、転、を、草、
す、益、森、利、純、就、禮、も、件、の、つき、来、梅、訪、出、股、
も、余、の、印、税、勘、定、を、到、り、大、橋、永、三、印、
来、梅、又、の、書、を、送、り、三、の、回、去、を、歸、あ、り、
ゆ、く、関、を、り、来、梅、十、五、の、北、横、江、後、の、紀、念

今この方面と共ニ歸国を求む諾未去在
十日考案を認る。今夜方限今彼に高
著書院の記念会ありとて妨げんし行
かす

四日

山田信元氏を訪尾佐中権も日本憲政
史を著せしもの宇尾伝津未孫吉田春吉
郎曰文三氏再訪日本海沿地の横河四郎
多し。遊元料次初訪しもの。館公此地を

榛原製

墨斗一外三改具を贈る。午後散策文
行巻と幼名物了。宇尾のとも市林正俊の英文
書方二種贈る。植木を午前二人午後二人未の

五日

西尾佐中権より法書二冊あり。宇尾
十一日城後物者より信物あり十一日夜に
出方と決す。十五方より北城行積に招待を
受けしをもうのきなきく物者と決す。長官
廣井一に出状を呈す。宇尾の津未訪

龍泉と申す一七のを物す、城後か氏大橋永
三印の鳴りて城後先賢墳墓徳の魁文
と書しと書(尾出の日本憲政史を撰
ぶ又刊臨り真と判り出政部等と書、英文故
科書編纂者、其を勝保千支印伊比治正純森
を招飲其の号を是れきん又其の打合を
す、

二〇

所、難没現一印関大印、本派植木親二八本

榎原製

二、小田島彦大印、妻の訃利、益森林利地
り未也、本橋義彦、身活物と題す、
三、美和り約中、八子山助、此のき更、
与中、判行をり、日も橋治生、二数東
日本、憲政史と撰、由子、中山房、本橋、之
視、割、内、く、村山、電、一、印、く、未、書、又、判、電、時
河、借、本、印、是、判、り、新、橋、治、生、校、の、日、憲、令、三、卷
本、大、井、岡、崎、植、木、林、田、南、部、平、原、田、下、等、
未、合、平、原、南、洋、法、を、り、す、

七日

昨植木を三入川つぎ来ぬ増田義一と来ぬ
坂上巧花を其の例の注射を交ぐ、是る由
由子と交付、故紙を兼て、十時と出版部
の株主総会をひらき、本助六命をたし決す
余の受けりし死高金六万四千二百圓、役員等共
千八百圓也、依拂五万圓返印、福山由崎
彦から、其の死高とつぎ香典をわらふ
文三をせり、廣井一と、村口書房、
寺物代ち田細川書房、各二十圓拂入、

榑原製

八日

日

昨細川書房主人、山井高の原稿一冊、
其の他の書と併せて、贈入る由、返す
酒を、武次へ、其の功を、的言、流し、去る
美の圓、二、字の、す、心、も、頼山陽遺、二、就
この原稿を、筆、下し、西、午、迄、十、数、枚
成、二、植、木、を、三、来、元、石、の、位、地、を、直、す、北、城
新、報、紙、を、十、五、百、五、十、年、比、念、今、の、報、紙、状
刊、二、午、後、三、時、の、書、を、指、の、を、返、す、終、紙、を
書、す、

九日

西相末美の回社、定すべき有給を授し七歳更
改上弘尾に碑文の原形を示す、武田尾吉を
訪、十時の法印創の重役會に依り廿四日株主
の會に附すべき議案を協議す、由書後、
教果、日本信託社に物を贈り、旅費を兼し
て時を終す。

十日

西、森脇美村令孫のとき、來流、前橋ちみ川保

榎原製

平よし未出、宇尾中澤よし未出、人の富三、
し村、毫、改上弘尾よし未出、の石、刺、親、音
徳の北、雨、刺、さ、字、を、作、り、ゆ、夕、城、修、く
由、者、の、つ、き、又、廿、四、日、の、外、又、安、果、を、贈、り、あ、る
日本信託、社、の、令、孫、の、會、に、附、す、べ、き、議、案、を、協、議、す、
揮、毫、毛、小、井、南、壽、詩、鈔、を、復、す、且、の、抄、す、瀬
尾、原、端、の、外、に、攝、す、

十一日

時、三、時、良、尾、よし未出、統、婚、徳、公、徳、を、定、め、七、歳、
の、増、田、義、一、の、時、通、株、金、持、込、の、件、に、午

田を油俵の爲着の多と報し未だ帝も
元解の今更株金を拂こらぬ泥中の金を棄
ふか如く愚の極るんが、此件二日累さるゝこと
約一年、一干山を投して不快を一掃せん
其十一時出政部員一日の賞を賜ふ料
此朝鳴りて来む画故園者然の二玉田健
花も画故園多と五枝扇を室の也
の午後開とわて現物友、甚有房を潤太印
と未去、今夜九時十分上野野とるし城
後に向ふ。

十二日

時五時半起床、車中飯後、所々社去五十
里、所々吾八と流す、八時新津に下車一
時、待つ其間日本宮宮以史と後をを脚を
破る、おる野に利り建都遊兵市、所々三
の車に入り来り、今も活家、女を訪ひんと
す、この也、同古も、天王、所々、達す、正午
にき、清浦伯一行到着、所々、所々、内務
部長、其他三、四方、使一行中、に在る、亦、清
の爲、所々、所々、杉本、古一、来着、清浦伯、

一七久間を叙す、三時中浦ヤコ板と今坊と
中と清浦伯の講演あり余と建部ハ講演を
清いんなど辞す、留所の真崎中大方長正
の及所采一、今夕、講演を畢り、宗家宅に晚
食を喫す、余も久代り酒次幹旋する事
り、公後伯等皆去る、余と建部留り二九
代番的十一時をこぎて臥す、

十三日

昨早朝起ききて色紙七八枚押書、公後

榎原製

之入井と宗家の理多と今夕七時念寺前
題を協議し、時を移す、夫々の七庭園
を協律、託兒所と見神社を拜す、十時在
原守、尾中、海くも、自動車を考へて余を
迎ふ、乃ち宗家を辞りて所々に佇居
野の家を投す、今日午後故郷の人天相山
と今夕、余の懐郷情法を少かんとして、天相山
ハ乃ち余が宗家の舊址、徳志園を云ふ、
午飯後行く、五十數名の有志来会、余一時
同輩、語り、前原與平名和等、板後府水

東縣南時の故人に就て語り而弘業彼等他
に就て郷土の資料を必きことを語り、今衆
中に弘業彼の田舎三人あり三浦秋房、関谷
貞清、鈴木守権乃ち是れ一別次未初めし
今よりより年遠皆余も一二尋ね告し七
十二三日志人より府中衆に應及と往事を
語り聞る真と是ふ。今衆中一関川書林
山崎汝西田稔、花原市左衛門信久乃貞次、西
田通吉皆余と多少の縁ありしものより、特
に録し遺忘に備ふ、夕刻、宴を開く、余亦席

榎原製

上故山と帰つての所感を陳ぶ、九時、宇尾の
方へゆり、十二時迄、宇尾甲乙兄弟と話し、今
秋此家と宿す、此家の先代翁ハ、弘業彼
時代の田舎也、家二重也、

十四

此六時起床、時り集今の人の、寤せん、色紙
短冊、書畫帖、書を揮毫、一紙、多録、を四
十数紙成る、関谷清野、関川交、之、五、訪、
清野、前、奈、一紙、の、遺、墨、を、示、さ、る、関、谷

より原校の扁額を揮毫見しことを請ひつ
時迄松木をもちて原神祀の扁額を頼ま
ん等と申しせしに切京後執事と約束九時
に許し七新河に赴かんとして汽車に投ず
関川停車場に是を見送りし方の生る宇尾
町の村新河に同行十一時新河に着有篠
田旅館に投ず村崎諸雄と訪宇尾町と
大に錫茶屋に利り、本中村隆沈の近き
南米に赴かんとしてさき迎へて込ぬり
長と表すや村の原出身の又も者より下

猿原製

村宇尾の寺に去る後お梅と鶴次、葛原と梅之
寝に就かんとして時新河の方面に沈れ
初、長寛の鞠に擬したる陶器多量と一二の
書簡と貯り、お原の有志もも草葉一
拾宇尾の町中を野菜の味を懐一樽と寄
せしむ連りの睡枕不足と度ぬと早く寝ぬ
初は初ア社を平松達那一郎危篤の報に

十五日

日

昨早相越前前の信川と伊豆の埋上す
着り運び川幅三合の二を締め頭三川の

凡化の字を携ち、栗林半一、物と貯る、江梅
の幼室二曲分四十回拂海、平松終に逝く、早電
を走す、七時四十分の汽車に投ず、此所の字
物部四時義士と回車、村嶋請雄、俣野、坊
近見、さうら、未だ、九時半長尾、着、大野を
こ入る、高田早苗、先着、小惣の後、道可、おん
公、今重に到る、十一時、北城、江、後、五十
年の記念祝典あり、余も二場の祝典、
演説を為す、畢つて、室あ、今、と、初る、三、あ、人
の、再、今、者、あ、り、宴、後、河、上、屋、井、関、お、こ

榛原製

怒天山と到り、お、先、着、と、惣、小、例、の、こ、と、
書、畫、誌、名、紙、本、を、齋、と、押、さ、ま、と、
お、よ、の、あ、り、吐、嗟、十、数、回、と、押、さ、ま、成、る、と、
時、北、城、江、報、社、の、社、長、の、初、室、あ、と、お、
一、場、の、演、説、を、ま、し、と、去、り、よ、の、お、納、の、後、
夜、会、と、い、は、ら、と、出、席、の、者、河、上、屋、井、
関、と、市、集、梅、と、轉、飲、十、一、時、の、列、車、
に、投、し、ち、さ、を、と、さ、り、高、田、関、向、車、
直、に、寝、ぬ、北、城、江、報、社、と、及、物、を、貯、る、

十六日

雨六時起床、九時五分上會着、其内
書不在中、濱刻場物組、河東、並木元
大、大橋、永三郎、泰宗、南、おと、来出
今、月八、一、一、法隆寺、金堂、四天王、夜入、論を
受、も、多、く、又、吧、河、清、沈、を、一、冊、子、を、定、め、を
多、く、午、後、後、御、孫、施、り、中、の、睡、成、不、足、を
補、ふ、

十七日

榑原製

此、榑、瀬、日、年、来、訪、伊、勢、道、後、重、の、玩、具、を、貯、り
二、本、在、望、三、龜、山、来、三、来、接、段、上、山、爲、を、近
財、を、受、く、午、後、雜、録、を、著、し、七、時、を、終、
す、栗、林、羊、一、く、来、出、稅、務、署、を、所、得、金
額、決、定、者、列、了、一、万、七、千、六、百、四、十、圓、也、

十八日

此、若、概、全、權、を、山、帰、着、小、久、江、成、一、今、純、由、日、七、日、
取、得、七、山、田、所、代、取、得、安、田、美、治、り、く、し、寸、珍、法
華、經、卷、を、寄、り、也、来、出、稅、務、署、を、著、す、益、利、利、純

う未出、森陽東村分物ニ付未出、日本ノ史國保
才十二才十四辨記本、日本橋北生堂ニ散策物
を待たし物ノ字尾尾白海、と未出秘笈刊行合
の片山正也、寺梅、関大牛、荒概全権、神尾、
一乙、西村、寺島、北川、校社職工、紀念祝日、
四篇、工と寺、寺台と報し、其の宗、米、二、寺、
名、題、中、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
結、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
く、排、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
債、印、の、寺、也。

榎原製

十九日

時、朝来、庭、庭、庭、庭、庭、庭、庭、庭、
有、志、宇、尾、中、関、川、関、又、漆、山、才、謝、也、を、
寺、又、系、系、少、川、正、美、と、也、物、を、寺、
理、一、寺、梅、寺、後、教、果、神、田、也、底、と、寺、
云、と、梅、寺、也、也、也、

二十日

時、寺、崎、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
未、訪、自、畫、也、贈、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

三紙の巻物刺を造り、十時印刷會社に送り社費
の費を造り、午後報社に物を贈りて海へ、
不在中折居正七東城以流身訪、日本官憲政
史を讀み時を移す、大阪毎日と余の書物を
七との月。

二十一日

時、真珠桂次へ、お茶を送る。又並木元太
印出生へ、佃若火を送る。折居正七身訪、語を林登
未夫回書致協會に、就て身訪、東城以流武
田尾去七又身訪、日本官憲政史と讀み午後

榛原製

華族會館の文の協會例令をひらき、宗家及
令節に訪ひ来る、本日土岐子爵より英獨の國產
品賣場運動實況の講演あり、余より本會に
於て國產物促進の動を企つる計畫を演
じ、産業教育資料として蒐集せしむ。時處
を令衆の覽に供す。

二十二日

日

而、折居正七筆す、本日雜出を讀み、午後四
時軒屋の會より身訪來訪物を贈り、軒屋に

のりまんも余の家にもある。此のりまんは主簿
七款侍り

二十三日

雨、十時出政部へ到り、弁部令へ臨む。石塚三
郎、其論、其を所、漆山、沢山、未出、穂積海
重の五人、但制、其論を候。新造、二橋、古澤と
表里を托す、五人、但制、其論を候。

二十四日

榎原製

雨、連山、書三くと、中に出、みの、お草の、画物
七幅、其、政上、江、荷、あり、例の、注、射と、施す。
出、政部、其、金、を、千、圓、借、入、十、時、日、出、印
刷、令、此、の、株、主、統、合、に、臨、む、本、未、五、八、分、配、南
を、決、ま、り、堂、其、を、千、八、百、七、十、五、圓、配、南、と、し、る、二
十、五、圓、(ま、の、合、除、く)と、受、く、増、田、幸、也、株
主、に、皆、是、千、圓、持、得、木、林、臨、美、術、家、行
西、村、直、一、等、を、訪、直、著、日、本、文、化、史、概、論
を、贈、り、中、元、島、定、の、内、五、百、圓、内、子、に
交、付、給、せ、と、物、を、贈、り、七、幅、の、二、雜、紙

を筆す。

二十五

時分刺森脇とせし大隈彦とち山に記のそ文
の協会の全長こつき協満しゆ余(那信竹者
店二三と記を記宅拂満更なる下谷に回
り又の巻を記を記宅と中ぬの拂満
由書ゆ子翔来冒座幸に困りや難書を
清又時を移す、市崎鉄太りし其の前代子
協氏の遺印を貯まり未だ、新の石好こ中

積原秋

妻あしし紫薔一画を定めせりある、口印
今社あ名義株の配申全る五十四領あり
育安三郎(月邦)り刊日本文藝
代史を定め来る。

二十六

時、山田あ心ある、淡刺協あ後授合々寄
附せり山田に托しやる坂上弘花、半助
禮二の山前田、二十山為指考なる、其時
桂あししゆ子の葉子到来、出遊二三の相を

贈心日本橋の一亭に酒飯七物くらひ臥して後
書、服部文四郎とて来云

廿七日

雨真冷桂のり、市崎鉄大、市崎洗吉、此處より
芳、市崎服部時計店、亀屋の工場を元子約の
宛、雨天のつき、他のこ、延、い、ま、小、久、江、城、一、今、此、の、件、こ
つき、来、流、伊、勢、の、而、打、徳、大、ら、く、市、崎、を、考、へ、し
山口、市、崎、伊、勢、田、直、次、と、来、河、徳、保、を、考、へ、し
時、を、移、す、四、時、は、深、井、の、杉、平、頼、壽、伯、針、と、

榑原製

榑原製

高田田中(穂)増田、今、早、大、重、役、改、造
ボ、こ、つ、き、内、議、す、

二十八日

雨、並、木、元、大、市、崎、の、も、来、云、中、野、禮、四、中
其、流、亀、山、素、三、子、の、協、代、ま、の、角、子、中、田、拂、入
河、井、繁、後、遠、近、紀、念、會、の、つ、き、来、流、午、後、二、時
半、の、河、生、命、の、印、刷、并、に、出、版、部、早
大、幹、部、の、訪、人、と、市、崎、松、と、赴、き、一、泊、が
け、る、流、お、を、試、人、と、す、不、思、意、氣、の、折、柄

春氣の沙汰するに、日清生會の爲め、日清
劇が被保險募集の分、合衆ハ、湖邊
を生し、環遊年掛を投ず、一行二十二人
高田編者、日清生會社長、田中早大、理吉、寺島、冬
加、一浴の後、三階、度々、宴をひらく、余席
上、更として、一席、挨拶をとり、宴會の合理化
を説く、深文、五、六の同行と飲む。

二十九日

兩、一行と相會を興し、卯酒を食ふ、午後二時

撮影、高田、去つて、四府、演、赴く、十一時、一回
自動車、回乘、湖水を訪ん、と、旅、故を
費す、微、去、未、洞、雲、時、山を没く、時、
山を現、い、す、眼、に、映、し、と、画、額、も、雨、中、に、さ、
を、受、ふ、車、中、望、月、の、洞、に、座、し、雪、助、の、多
を、換、り、待、つ、維、新、の、時、の、局、驛、を、終、る、車
ハ、疾、走、し、七、湖、時、に、着、け、る、洋、風、の、飯、店、に、入
リ、休、憩、し、麦、酒、を、飲、け、る、茶、を、啜、り、日、前
の、湖、邊、に、し、七、集、す、可、く、五、元、ハ、初、め、に
三千、尺、の、雪、中、に、人、多、を、知、り、階、家、に、根

関下の考古館あり、藤本陣の傳へる古文
書も多く陳列す。中々珍奇の事蹟を語
るものあり、一回觀し具をもて、時改と一時を
過く、立ちよる自動車を送りて物金に就く、
旅舎に午飯を共す。三時函館を去り
小田原迄自動車をも地を汽車に投じ
六時家にゆくる。不意中、西宮仙波未載
館子の葵文庫にも道般聖上海幸の
節流境に供へる圖書目録其他の書類を
寄る未だ、山形の海邊に往たりしと果物を

榎原製

を貯り来る。

三十日

晴、西宮仙波馬より仙波町入道の坂本名刺
をととむ。田村社三つ、この寺院の針も亦
と函へし来る。雜紙を著す。免を付りて
日本橋の物と物と雜紙を、雜書を
又時を移り、今津ハハと也刊の東洋美
術を定めて、直り村の、未だ益
勘定并に月末家用仕拂今日迄仕

拂分千四十九圓半四角也。又終老
酒を徳たらし、今伴ハ二三酒状を為す。

七月

一日

晴朝未施帳を葦葺く、銀のりもし、煎金千三百
圓引出す、長谷部宛の借入金、銀のりもつき二千
圓返印、擔保留川元、午後一時迄、刻待、
彼と別り、道邊、比奈、存、狀、國の定、款、首、集

榎原製

と協議す、後に、漢持、後、援、金、の、手、筋、を
変へ、為、善、の、事、也、道、邊、比、奈、今、を、指、内、の、突
叩、に、代、り、圓、割、向、上、今、と、改、む、

二日

晴、山、の、古、也、の、ま、り、復、帳、今、本、能、本、金、以、方、の
昂、と、其、不、命、河、清、流、も、報、以、此、就、任、の、換
換、狀、別、の、九、時、本、精、時、と、其、と、自、動、車、も、と
本、所、太、平、所、股、部、時、計、工、場、精、工、金、に、別
リ、大、隈、侯、去、婦、と、其、に、社、長、の、あ、あ、内、の、と

工場全部と視る、工場総数は九千あるが
三階建ての朝日新工場もその一也、時計
一個を心する二千四百錠の工程を要し
織物微細の細工多し、今のセンチメートル
文字版も皆此の工場から得るといふ
此の蒸機も皆由四巻也、従業員総数
二千四十七人、由女工四百六十人、機械二千
三百八十五台、一年生産高は十腕時計
計三十一萬個、掛時計九十二萬個
とす、紀念として腕時計と贈る人も正

榎原製

午の書、雑記と著す。

二日

時武田の息子末孫、大隈家別邸の中に見る
品を贈る、その美なり、擔保物し、印劍様
品も五十、差入吉田の友人、古物を賣る、又
林葵未天と古物を賣る、政上の為あり
注射を施す、施すを著す、久江村一
二枚、大隈家別邸、女帯の品も
贈る、稀古複製品、友人と夜、安田集次

即ち方へ振のり、宛名の宛と受付、安田寛心集
の瑞方を観る、野村宗十郎銅像建設事務所
記念館を寄る、鈴木氏宅を寄る、山若、酒
場と遊り、来り、内子歌を夜更く行く

四日

晴、朝来、瑞雲を著す、段上、関係者、金五
十円石塚、中、と預り、五き、今、朝、百
金、す、木、契、未、六、と、来、向、す、法、み、光、を、作
る、相、坐、の、物、を、精、心、作、る、故、と、傳、へ、る、由

未、午、睡、甚、し、法、重、柳、く、浴、衣、也、二、枚、郵、送、。 泉
山、来、三、海、田、の、扇、雨、の、暢、も、お、春、。 今日、氣、温、凡
十二、度

五日

晴、朝、来、旋、舞、を、著、す、。 龜、山、と、海、田、の、函
扇、一、軸、を、購、へ、。 而、村、徳、大、ら、。 余、八、山、陽、の
造、美、の、造、運、所、感、と、叔、の、造、造、紙、美、の
画、を、寄、る、。 十、時、日、時、印、刷、今、社、と、到、り
車、と、交、す、。 午、後、夜、を、と、法、み、向、を、寄、る、。

六日

日

前、其の邊を極東と未出山村耕花の云状を為す
校友土井深山陽の云情を抄る波定を
清山鷹也、関大りしと北城の積積工多
以二分未信十一時迄を付先非多波に絶
以右の松井の活動映画を見る、奥田中村
まの流人を備わると迄、この掃除を為す

七日

雨、山村耕花の云状、押真を托し、大震災

榎原製

比公帳の書成の、大正武さし、其の二冊、
物志、熊の玩具を那さる。六人、江戸、
流と編、流して去る。片山利久、
を報す、平洋金、この信を木乙、
究の情を未さる。原上、
たを、終らち、京都、
既、
、短刀、
、山村、
中、三、

しと夕陽の初、夜半迄雨あり

八日

雨、田代亮外政に献去山田清也交と申す接
所、得梅又令出席につきて早大とて総費
と送り来り、午後神田に散策二三出村
を功のて二三の園者を燐を油とて、西久保
弘道逝く、

九日

徳原

雨、朝来強風を著す、西村徳大の二節七
紀州行日程を報す、十時中書印刷令此
の重役令に歸去、午後林葵未天来訪、十村
康に助死云つて、代人を告お式に出す、

十日

雨、前日獲り書本に横と述り、その日を費
す、考名を春城後と命す、早稲田中書
、會定の附金の内、田代付、原久一、早稲田
午後散策、日本橋、雨、三良寛の肖像を

海之内、必あり、舟中、武時、因、也、寺、の、の、
吾山雅國也、旅、を、兼、す、

十一日

而武田尾玄大、行、也、山、幸、友、今、由、富、為、文、
ノ、来、の、系、久、一、中、母、来、り、京、の、神、考、二、三、冊、を、
贈、く、三、山、武、大、年、接、秦、宗、南、を、是、来、也、午、
後、走、を、付、少、也、三、紙、之、也、拍、と、短、わ、て、か、る、
高、原、次、古、く、し、来、也、五、時、東、台、の、梅、川、亭、
、用、の、の、四、尊、合、と、臨、也、席、上、前、田、瑞、山、の、

棟原

白馬衣

九州、旅行、淡、有、り、田、中、智、考、の、盤、材、山、法、有、り、十、時、
功、也、平、河、重、三、中、へ、も、来、也、

十二日

所、旅、を、兼、す、也、村、に、久、便、利、也、
田、中、信、之、中、に、簡、す、段、上、山、花、来、也、
例、の、注、射、を、施、す、段、上、の、考、扇、而、と、押、
高、也、松、井、郡、況、と、電、話、を、交、也、今、夜、
余、考、と、也、三、紙、の、中、に、ゆ、く、る、都、を、也、大、
金、茶、馬、も、神、道、関、係、刊、本、目、録、を、寄、り、也、

午後山前物に到り西又保山道の先を武
臨正、今夜九時迄は宿屋に宿むる事
と考す日行高田平沢五来外、吉田秀人
松井郡流も同車、車中福崎甲子三士四
以流の令す、赤川上流次郎と令す

十三日

今朝四時半起床八時代高田着高田教
校及出立不帰田流宿着後松井高田安
宇尾の令す高田三郎と令す高橋外山三

榎原製

中山の教場作爲新地なり寺社既已申候一
時極寒に候候七多午後一時より五来平沢
高田海邊宿に臨む余例に依り海邊と祈
し文に臨む、高田三郎と物に政次と候し
時を候す、赤一行の五来と隨筆と候す
五時伊太利軒に駐き校有る事、臨む未令
六十餘名、高田令席上余は未禱堂と候
徒、就て一場の演説を候む、九時散會後
校及十數名に迎へん錫茶屋に飲む十
二時ゆり臥す

十日

昨夜十二時、伊太利軒火と云し全焼
と云ふ、乃ち昨夜、乃ち坊也、市街況、
路、高橋、我、吉田、和男、真、中、
村崎、雄山、田、教、城、上、
交、日、子、訪、十二時、松井、
平沼、五来、と、行、形、亭、
校、友、有、志、十、数、名、と、
去、九、時、子、、甘、、餅、、
咽、系、の、途、に、、就、、く、、
車、中、に、、入、、り、、来、、り、、
酒、二、瓶、
贈、
棧原製

村崎、衛、二、令、り、、去、、り、、
車、中、に、、入、、り、、来、、り、、
酒、二、瓶、
贈、

十五日

昨夜、に、、飲、、み、、酒、、を、
由、官、後、に、、志、、き、、り、、し、、酒、、を、
日、供、麻、の、、所、、鈴、、木、、文、、平、、と、
御、揮、毫、を、、力、、と、、の、、来、、り、、
未、也、高、、根、、義、、人、、経、、死、、の、、報、、を、、受、、く、、不、、在、

中法本喜代松来り、加賀田以武とて麻
を踏り来り、以何物井郡治三二也
を投す、掛拍一幅表世衣成り、西村徳
大寺と来也、道中清依去也、道中其成
を迎へて晩飯をも興り、五人皆光の音
楽の河也、今日氣温九十二度、井口醉倒余
の家におす。

十六日

晴、林登末夫村山亀一即武田尾
去り来り、片山利久と出れ、眼

榎原表

鏡修起り、為銀産の金田を行ひ、
一個猪入資生を重に釣して物と、唐田
取坂田増五郎と名付、高島沈去所
印譜二十冊、起器とす、旅路と
筆す、関方より高島沈去と書状を
書き、関方より来也、紳友の囑教紙
揮毫

十七日

晴、此所北州徳川の途より西村徳大より訪
問の都立に付先づ大隈侯八十五年史并

風を伴親の包うを差送贈呈、其為の
旨を流す、押書物小包のうを差送、十
時出政部、許部令の、臨の、龜山来三、
書込代金の用三十圓満す、左信州並木
光大よりし廿十ギ一函、贈り来り、因有彼
候、今も理多未更送、車送引儘の報書
列、文行書と一二の用とと、勝山にゆ
く、萩原英一母の訃刊、丹黒、原平と来
出、隨筆の扶料を、案の、又賜刊、
所得税并附加税の徴票刊、

榎原表

十八日

時、勝本を長代招来訪、此物折旅程二つ
き協議、七去る、西村徳大印、一郵便を
送、早大と、旅費、領取、萩原英一母
死去、つぎ光を弔礼とせ、午後、折程を
東、浄念寺、後代と来出、日本、師と拍を
贈り、ゆ、又、関大、り、来出、大改、高、科
大、同、者、深、長、山、冠、亮、と、同、者、り

業に就てパンフレットを寄せて来る。山田博士
も接見。如地圖を持来

十九日

雨。楠瀬日年。訪村山。龜嶽。伝噺の頁
観。因碑集字を托す。早大も。に如回
行。講讀者の。変更。に付。来出。大改。任。諸務
に。未。部。系。に。傍。刻。地。物。被。録。し。余。の
押。是。の。類。を。寄。附。の。来。る。並。未。の。元。大。等
に。し。し。み。を。記。し。し。し。二。三。回。引。出。す。並。未。

積原集

尚。夫。午。後。旋。舞。を。筆。下。す。西。村。兵。次。舟。橋
西。条。舟。共。し。し。中。条。舟。月。屋。の。市。額。押。是。毫
を。噺。し。来。る。訪。本。等。如。如。に。如。に。如。の。報
あり。日本橋一師。と。物。を。辨。の。

二十日

日

晴。冷。多。如。如。の。旅。に。上。え。ん。し。朝。来。る。を
し。各。所。も。噺。を。言。け。り。各。所。額。指。お。の。押
直。毫。に。元。か。り。し。り。費。し。数。紙。成。る。大。等。の。よ
り。官。紙。を。如。如。出。出。中。止。の。方。に。し。る。

此の柳子来り、先と此の信の記、永政四年
尾に午と云ふと無り、此の信の記、永政四年
松伊勢の西村徳吉に、電杖を著し、
後押、毫数紙、其の、新原英一母の先
お式、音典を為し、先をやる、大政に流す
信、永政四年、二枚、淡路、物、物、二枚、松、月、度
巨額、二枚、ち、年、因、三、枚、若、原、神、社、二、枚
成、梅、嶽、詩、鈔、帳、出、未

二十一日

榎原製

此の信、永政四年、前、す、朝、未、旭、在、の、梅
嶽、詩、鈔、と、淡、路、の、二、枚、永、政、四年、永、政、四年、
若、原、の、未、出、下、婢、一人、嶽、後、の、由、者、セ、し、
永、政、四年、未、出、書、信、永、政、四年、細、末、を
路、

二十一日

此の朝、未、梅、嶽、詩、鈔、を、後、の、具、の、自、向、を、
亦、永、政、四年、永、政、四年、松、月、度、の、
淡、路、并、大、政、信、永、政、四年、の、囀、者、七、人、の、
滴、

武田居を来候、高森迄をこし、耳出、及合、外在
の家、納税納入、午後先と伴、乞敷、兼、始生、迄、
相と、輝、名、由、了、旅、程、を、著、す、真、島、桂、次、郎、
外、三、の、旅、程、列、り、夜、未、雨

二十三日

町、木、林、塚、今、訪、こ、の、も、来、訪、任、滿、往、来、記、者
小、池、了、古、次、郎、了、来、訪、校、約、を、請、ふ、十、月、強
に、寄、す、る、こ、と、を、約、す、宇、都、書、真、島、典、二
新、と、す、病、院、を、之、に、あ、り、象、の、置、物、を、祝、し、
て

櫻原集

寄、す、板、敷、詩、鈔、を、後、又、且、の、抄、す、真、島、
桂、次、郎、に、一、二、の、詞、を、寄、せ、暑、中、と、見、え、あ、り、
真、島、典、二、の、医、家、の、額、面、押、毫、也、高、森、神、社
の、額、面、改、化、白、木、を、其、勝、展、く、家、庭、往、来、
に、関、す、る、一、書、冊、を、寄、せ、来、り、の、心、也、下、条
高、森、神、社、額、面、主、於、木、文、平、一、二、の、詞、一、且、
つ、相、毫、の、額、面、を、郵、送、す

二十四日

高、森、山、素、三、来、り、書、画、物、を、示、す、鮮、人、劉

應泰朴信植来訪揮毫を清め、小田嶋君
大中とて物を贈り来り、松尾を著し時
を移す、和田為吉に筒す、午後七時松尾を著
引且くく畧を忘る、五時内々亭に物乞御
杉本洪と親と出故都の漢文及科書海集
に付協議す、立新の西宮仙流らと来り

廿五日

西、松尾を筆し、供人の走と付をいふ、松尾を
散乗娘存に備へ文の巻と語の之切書、分

桂原集

日若、松尾を著し、然中も心あう、凌きし、松尾を
是れ、松尾を著し、時を移す、原久の二冊
来り

二十七日

明、朝来松尾を著す、文の場合の編輯員
福田譲と流す、政上弘花来り、治財を施
す、丹馬原平、出島年功、午後八時を共
す、西村信、たら、来り、午後又共
執を冒し、松尾を著す、目録外雜誌

を護り大改に流し可保部後を深しゆ
り海に出る。ゆ有申すの事婢ゆ有。宗都
其時典二と廿八日開業を報し未也。

二十七日 日

明朝未旋環と養す。村山為一申す未也。
人の為るに押毫数歩流汗淋漓等。松
月高款三つき丹馬堂流し未也。午後散
采丸養生に於て姉崎博士匠某切支母傳
道の真意を傳ふてゆくる。月未部定る二
る又十日ゆあり流す。

徳原製

二十八日

明、中令禮四申中令改築二つき流り全開地
に開し未流。木林昭美村を招き月未の事
馳つき依頼す。未也。龍泉を養ひし
午後三刻の儘んて散果日本橋頭と上
馬に別り二三拍を舞ふてゆくる。赤龍保を養
しと時を移す。台湾を相傳二つし未也。同亦
亦癸未と未也。

二十九日

昨午後驟雨あり、朝来旅館も兼す、山内
法印来談、後覽合を配本、寺内元重を
泊物と贈り、午後山をせりて、河口、金を
千両文の編合なりと来、日未定、金約五
借入、午後七旅館を兼し、夕暮、系下、世
皆井、戸部をり、本の所澄、深夜、驟雨
あり

三十日

朝来旅館と兼す、驟雨志きり、河口、カ久江

棟原集

成一身法、田村在二、中之、文、方、院、改、革、の、件、一、つ、き
ま、功、果、尺、史、回、録、十、冊、と、懐、こ、入、ん、以、よ、を、お
春、龜、山、素、三、出、第、房、自、著、下、の、歌、集、を、高
く、し、ま、り、示、す、ら、指、導、動、き、勢、り、可、く、
午後七旅館を兼す、法印、山内、の、文、冊
法印の興懐を談し、驟雨志きり、河口、池
河口、尚、兼、陣、田、中、ら、し、未、出、

三十一日

朝来旅館と兼す、鈴木文平と兼す

乙利、葉、使、び、散、策、日、本、柄、物、を、購
ひ、報、せ、致、し、七、ゆ、く、午、後、亦、驟、雨、あり、
毎、日、能、報、を、葉、より、群、山、お、未、知、の、人、ち、
木、保、況、も、山、陽、の、詩、書、に、就、し、未、出、回、者、
飯、塚、も、も、秋、固、定、款、案、を、田、所、し、未、出、消、
部、求、并、に、松、日、虎、新、井、以、大、ら、し、未、出、
河、部、も、し、出、著、を、字、を、未、出、夜、未、驟、雨、故、
次、刊、日

八月

一日

而、風、初、未、能、報、を、葉、より、驟、雨、あ、き、り、に、未、
八、日、夜、も、加、馬、垣、の、海、是、利、の、飯、田、早、苗、勝、
本、長、代、移、来、玩、午、後、使、人、に、神、田、の、お、林、を、
訪、ひ、志、川、中、に、葉、を、購、あ、り、物、く、驟、雨、あ、り、
坊、り、姉、崎、の、切、支、冊、信、道、真、海、を、後、に、

二日

天氣、未、に、回復、せ、ず、朝、未、能、報、を、葉、より、後、

山本三三三樂寫自筆歌集より配布
住吉百首と贈小僧の多し也此歌す
百田拂小代領の内、蜀山、石橋、磨更、田
原十冊交附、三麦、新のり、を約千、うり、共
五、又四、浮、照、光、も、も、来、信、所、得、税、附、加、税、共
五百十、の、田、納、付、法、部、次、補、勘、口、年、に、乙、札、を、か
す、干、一、時、筆、研、に、信、み、散、集、神、回、の、乙、店、に、一、二
の、圓、者、を、贈、の、細、川、乙、店、に、二十四、冊、入、紙、信
志、料、牙、正、巻、出、て、百、格、義、彦、と、記、本、を、受、く

棟原製

三日

日

時、朝、来、能、保、を、兼、す、今、年、の、一、三、三、近、刊、東
洋、美、術、二、冊、法、隆、寺、金、を、佛、像、寺、目、録
(複製本)と、寄、て、来、る、甚、は、海、重、松、他、二、下
り、葉、子、を、贈、り、来、る、百、格、義、彦、と、今、年、の、八
一、三、三、と、寄、り、一、三、三、信、ん、て、先、を、傳、へ、し
新、刊、之、と、散、集、神、樂、座、の、映、畫、を、見、り
博、覧、の、平、家、名、冊、共、原、平、一、三、三、来、也、未、定
尾、宅、忠、丹、と、寄、り、一、三、三、来、也

四日

明會田富原自卷の錫の茶托を贈る楠
瀬日年十のる前の境し字集字欠観國
碑の稿成る三其後約手約法三廿更
る二十日割引果一村山亀一印
間す切支丹傳道の眞瘡を讀む酒を藉り
七午睡醒の来り遊玩を著す、東京市
金庫税の通牒到る、関太部と未出方働
争議の終向を報に未る。

徳源製

五日

明、新田儀式流、切支丹傳道の眞瘡を讀む
理髮流の法変を覚え、出版部と新刊
毒地流の政教をえり論経新釋を配本
し来る、立浦和の和文三三、尚す、芳賀矢一
の国民性十論を後し午睡と持の輕井澤
本間久雄の書刊る。

六日

明、朝来、遊玩を著す、本坊、陽美村、又流、京都

便利をくもて復た本西館の六冊集刊未改
上は花未の七江財を施す、十一時を以て出遊
船中の風月を以て飲して愉けり、亦花未を兼
す。

七日

明報未切支丹使道の無慮を後述、女島
山素三と花未、釜山江の田中と若手、油井
河内アノ修理ニ来り、各人別在而漏修
玩換潤の為の文三を考ふ、分付ハ一と

桂原製

未出正巻五巻目終

八日

明報未花未を兼す、山田信也、平山登美夫
友木梅、阪上弘花等の来り、物を宛ぶ、放送
あり、河内副武員を以て一七余の放送を需む
計の、午後日本橋を以て散策、驛西へ過り
帰る、亦花未を兼す、文の場合、うらやみ、改文の
日本書局と出版せんと合はざる、多岐ス、テ、三三
ニホテ、四五の外圓を以て合して編纂上の

柳瀬をうらり、高橋義彦をも之十公望の心批三
十日の郵送ししあり、夜来小雨

九日

晴、冷氣を覚ふ、朝来旋廻を事す、山田
清心、柳後三條の北新町の邸より社より西へ
新より其の橋、重松健二にも未だ出立
小波の邊に歴紀念碑と云ふ所を求め未だ
藤田久新の坊に居る、空深如洋と號す
午後旋廻を事す、且つ如洋侯を渡

榎原製

古、重松家の八時着の雪敷あり、先停車
坊の辺に候し候し、柳を内裏と云ふ
涼しきあり

十日

日

晴、朝来旋廻を事す、十時より重松家の
を擧げて銀座迄、物を贈りて、
里王堤に遊んで候す。

十一日

町、朝未旅館を借り、小森堅三園寺飯師
舎の件もつと来候。村山秋浦等も来り、坂
田増五郎等も前島男記念館を設け、こ
つと来出。午後、旅館を考きつ。けり。今日の
乙早宿の故人五十名ノ思ひ出を考き畢
し、重頼静に五十圓の基迄費交付。以後
旅館も来出。

十二日

町、朝未旅館を借り、日本園寺飯師
り来出。故人等も思ひ出考き、文り書と

訪のをゆへ、高橋義彦二園寺、と夜重頼
静ゆ其の日、途と就く。又、吹有る。本村の二天
中も来出。

十三日

町、朝未旅館を借り、山本三三、高橋七、高橋一、来り。午後、思ひ出を考
き、教養、菊を鑑念料名を考き、後、
本十、此旅館、由、高橋一、思ひ出を考き、早
稲の故人思ひ出考き、七十名、達す。

十四日

朝、朝来雜紙を著し、半日を消す、神代往亮
とて来出、捧六七を以ての友人と介す、午後七
時、秋の筆心、没頭、友人の四ひ出七十五令
達す、今日殊、長文のよき多し、早大教授
高倉坦翁の卦列、村山魯一ら、とて
出列す、

十五日

朝、朝来雜紙を著す、故上弘翁、其の注射を

榎原製

施す、僧あり、佛壇に蠶を養ふ、午後七故人
の思出を書きつけ、八十名と達す、併、朝来
神田の出陣を以て二の回、出を購ひ、六
麦酒瓶を贈り、ゆくる、早大、高倉、邦將
阿古田、志輔の卦列、片山利久とて田中
え、歌、伯古、其、色、香、を、早大、四、書、終、く、宗、朝
の由、報、了、す、余、の、初、講、に、係、る、也

十六日

朝、朝来雜紙を著す、宗家の流を以て是

淨念寺開懸ニ甘来流、内子衣服の龜干を為
す、桐を架しと物と懸置す、秋浦の囀ニ應し
山陽の暢運ニ應す、児女視割ニ少く、早大
教授伊達保美の訃列す

十七日

日

此、妙善の船中を静、清志列す、朝来流
も筆す、山田清心来流、龜山素ニ書、暢の
題、運と清ふ、世ニ應す、午後、此世を
棄、馳而ニ過、少と過、思ひ出、此一ニ九十、
散

榎原製

ニ連す、ノ刻激者也

十八日

此、甲泊と古芸館者と半、梅、向、寄、七、
二、三、四、五、六、七、八、九、十、
投簡、淨念寺、修、保、費、分、持、金、林、丑、田、為、
村、山、秋、浦、山、陽、の、一、行、寺、暢、と、哲、之、未、
匠、と、清、之、木、林、陽、田、村、之、の、協、合、の、
河、魁、入、の、き、未、流、萩、原、英、一、と、及、物、を、
集、了、西、村、徳、大、ら、し、未、者、且、短、節、と、

リ来り、午後小説を讀み時を費す、終つて顔
臺より引出す、俄後赤倉島入洋港を去り
来り、又高田早若より来り

十九日

時、急いで心三作内を熱海に訪ふと家と出づ
偶に先々頼念の人と訪ふんとて、此に車に乗
り、余の八時十分の汽車に投し十時迄熱
海着、高田と旅して半日を満す午後
晚八時に高田迄の石井に参り六時廿四分

榎原製

の汽車より物京、高田迄との旅の事
放稿と記す

念日

時、旅を筆す、十時迄を費して数筆の
稿を讀し、午後、暑氣甚しく、困
中説を讀み、刻にあり、村山秋海の山陰の
書物の運に記す

念一日

小雨、西村徳を参り、湖と見、八時迄

動政に訪ふて其校の凶悪を内渡してゆき
生四七中より未出旅状を兼して時を物
す、花菱道を龍溪しりる、九物の有る元家
らして西爪を狩り来り、市島獄をり、初田者
より来也。

念二日

頃朝来旅状を兼す、亦浮草を良寛手
鞠の事をも兼てあり、六市卒大をり
軍部西爪を狩り、十時交を付る空

此時七散策の始と、酒七ゆき、兵隊茶
心もも葡萄酒二瓶利、宇尾町海
川扁類押書をも需の事。

念三日

頃朝十七日着幕の報あり、及本幕迄馬
次男金太、即洋行中其死の報あり、今社よ
り手紙出内を届合の及本なる、せり、吊
意を表せしむ、朝来押書は地方の囀
に應し、十散紙の扁類押成り。

の口高田子峯の四府侍のおおにねかゝり、
徳と物懐十五時を過ぎ、午後冷し、麦酒
と飲ふ、四五枚掛、是、魁、百、龍、紙、と
筆す。

廿四日

日

昨、相末龍紙と筆す、奈、る、若、今、津、八
一の浦息、列、る、淨念寺、徳、代、も、未、去、十一時、先
を、付、を、給、生、二、浦、(、十二時、三、十五、分、の、汽、車、に
投、い、圓、高、津、に、お、く、大、船、崎、に、列、り、概、其、車

榎原製

如、海、生、生、い、半、分、位、停、於、三、時、(、漸、々、
高、田、の、庄、と、着、す、と、海、の、を、お、中、津、如、洋
先、着、如、洋、山、前、の、人、画、を、よ、く、す、殊、に
山、を、描、く、と、得、意、也、夜、お、お、後、席、意、二十
紙、を、心、の、八、時、之、十、分、辞、し、七、回、(、汽、車
満、員、一、席、を、存、せ、り、三、筆、字、と、傳、い、る、
一、席、を、得、し、十、時、(、物、書

二十五日

昨、高田金三郎と、押、巻、を、頼、り、山

田舎に村山あり、助来、村山とて物を貯
くる。花畑と筆ありて時を移す、電燈料
初付、早大の内通分、九月二〇日、村山仰邸より、
くこの色紙を下さり、植木職人より、
を敷き廻す、宇尾の海押、毫の紙二枚、
送、刻まぬ紙を筆す。

二十七日

植木職人、村山、
二十日交付、武田尾吉出、
武田尾吉出、
武田尾吉出、

植木職人

付来紙、
枚、
大、
紙、
揮、
紙、

二十七日

武田尾吉出、
武田尾吉出、
武田尾吉出、

作爲泥来、物と貯る。十時散来、日と物と
を少し取来、改て来り午時、物を取、後夜寐
能徳と後云、付内(外)送、中(外)如洋(外)来
間、可(夜)馳(外)一(外)

廿八日

而、人昔木と生、初(外)生(外)氣(外)あり、高(外)回(外)分(外)前(外)三(外)輪
潤(外)大(外)中(外)と(外)来(外)間、能(外)和(外)也(外)兼(外)す、板(外)上(外)心(外)花
来(外)り(外)注(外)射(外)と(外)施(外)す、改(外)本(外)嘉(外)法(外)馬(外)、香(外)典(外)と
貯(外)る、付(外)内(外)道(外)送(外)、間(外)あり、午(外)後(外)能(外)得(外)と(外)後(外)又

時と物と

二十九日

而、秋氣動く、植(外)石(外)を(外)三人(外)来(外)り、能(外)和(外)と(外)兼(外)す、小
久(外)江(外)成(外)一(外)身(外)訪(外)、午(外)後(外)更(外)と(外)付(外)り、乙(外)丸(外)表(外)、香(外)物(外)と
解(外)ひ(外)高(外)修(外)局(外)、善(外)古(外)光(外)寺(外)辰(外)物(外)分(外)と(外)元(外)光(外)の
為(外)物(外)と(外)能(外)得(外)と(外)物(外)と

三十日

而、植(外)石(外)を(外)二人(外)来(外)り、相(外)来(外)能(外)和(外)と(外)兼(外)す、

本林脚田村来り、文の考定来り、協会の經
済の整理を協成す、高田久敬より、此洋
の画を贈る、工本行状、執事の思出
を筆録せり、あ、坪内道延より、未出
龜山来り、未接、平後古遊記を筆す、海を
或迄印の大隈家の文考より、油心比大隈元辰
の冊子を讀む。

三十一日 日

頃、暑熱と潤つて漸かく八月終りとす、去月

榎原製

廿日、月四日間、敷七の若狭のを試むる
こと七七、毎日日課として寛政録五枚
を筆し、羸り得るもの二百五十枚の
隨筆とす、中に新七百六七十枚、早
稲田の故人の追憶記を故人の數百、垂
人との。毎年、暑に困る、味、本夏を去
り、唯此健康を完する、く、此厄月と
送つて得るを幸とす。朝来遊記を筆
す、浪を或流中、河面、山中、来り、宇属、兎
来り、平後光を伴ひ、敬来、本の植

木履一人未だ、天竺伊左衛門の朴利の、夜半
驟雨一名、名々の在る招其他修集成る
此費用百六十二日也

○九月

一日

雨、多し大震災九年目の記念日也、相来
遊覧と兼す、高田より三輪河原より
と未だ十時を過ぎ、二万十の、
無以平穩也、村山亀下り、未だ、

桂原製

先を伴つて浅草観音を参り、大塚より
行き、妙吉、村山亀下り、先出とあり、
高田より、郷回須賀大町
の朴利、二百十日、

二日

崎崎物に投間、中条河原彦太ら、
死に、
谷と投す、
関谷其可福、

武田尾去來流、故右左一人未之、掃瀨日年
三回す、五時深井の松平頼壽伯邸に到り
早大幹部政通に、関了内儀と考す、高松
平田中金子増田海三(冬集)

三日

晴、久之江集一本森脇美杉存古、松平文政
院の行法を題し、内儀考、借て教筆不
神田の二三書房と、近江神木切、酒飯
しと切し、珮法富の刀劍、此と後、植

榎原集

木、尾天集、主川作存、葡萄園を貯集

四日

晴、朝来花、深と筆す、掃瀨日年未
流、午後散策、松平と物と、松平七切、又
松平と筆す、植木存一人来、夜来、雨到

五日

明、富山、河内、尾、森、陽、美、村、毛、利、宮、彦、文、
十、五、の、内、中、徳、積、と、宮、伝、と、文、力、尾、山、事、
三、と、尾、山、河、内、冷、香、の、六、區、母、と、婚、小、姓、和、と、
兼、す、淡、河、山、爆、光、氣、流、三、連、九、七、以、東、
都、夫、元、心、来、り、余、の、家、の、椽、側、七、役、セ、る、
午、後、亦、癸、未、五、身、伝、楠、瀬、物、も、久、觀、重、
集、字、の、標、を、美、純、と、寄、り、有、る、村、山、尾、一、
二、部、也、と、も、な、す、田、中、徳、積、と、未、也、今、津、八、
一、と、三、十、回、め、替、入、色、状、列、

榎原製

二日

明、田、村、美、二、中、又、伝、者、院、の、件、二、つ、き、未、伝、及、
上、弘、卷、に、も、注、財、を、交、く、今、年、八、一、三、間、す、
植、木、屋、今、口、の、と、ろ、ろ、高、田、早、若、身、伝、田、
中、徳、積、と、未、也、午、後、心、説、を、淡、又、時、を、移、
す、村、山、河、内、口、亦、及、何、某、事、二、坊、又、火、印、刷、
今、此、に、也、三、と、も、な、す、雪、伝、と、今、此、の、あ、る、
と、聞、く

七日

日

昨今朝内子成由不動冬詣に行く、半日の説
談必映る、高橋徳三より物と物と神
田の古蹟を記す、唐半菴菊志八本と傳
ひ神楽政に致ししゆ、龍林を草す。

八日

昨今朝冷、午に出版部と判り、ころ田借入、田中
徳枝も早大に証を流す、文行巻を記す
真淵翁の昔好書と玩具を傳ふ、不在
中、柿瀬日年、自れ志の形、鹿の枕を記す。

榎原製

九、町の真、山、も、縣の物、法、二、指、を、送、り、来、
る、今朝、身体、ヌ、タル、ミ、を、覚、ふ、午後、臥、し、て
體、温、を、検、す、う、る、二、三、十、八、分、あり、感、冒、に
罹、り、ゆ、う、と、覺、え、し、腹、痛、を、扱、き、手、巾、を、巻、
き、夜、う、め、る、カ、熱、を、と、り、智、々、と、し、て、睡、る。

九日

昨今朝、体温、三十七、六、分、九、分、九、時、候、上、八、分、
身、冷、体、温、三十七、七、分、三、分、今日、印刷、心、地、
三、堂、物、を、紋、心、より、行く、能、り、あ、る、為、に、洗、衣、

再び不遇 午後二時三十七分九分 高田松長
一連達郵便を動かす。郵便光亮大分五の
忠一印と未出。本林脚来功不遇。三川
原と香魚を貯る未出。市未醫来診。夜
間体温を候ふ。三十八分あり。夜上の注射反
夜と起し。改ふやせん

十日

晴 風左外 夜終候 暑さ六十度 約大工に
海外ニ来。并電氣代二十円 拂ふ山

田舎の落回 夏来口不遇。本日又白堀
定今日より。臨中。大台湾。市極。と未
之。市崎。又。冷。と。押。喜。の。お。出。印。の。午後一時
体温三十六分七分。坪内。紀念。対。國。認。一。の。を
得。以。音。報。あり。夜間。迄。未。診。夜。入。の
体温。昂。進。七。分。葡萄。酒。一杯。を。能。み。睡。を。受
ふ

十一日

晴 今日為 暑中ニ在り。於。海。二。枚。を。兼。す。

早大況革略(早大予務不_レ油費_一也)を復_レ出
上_レ旨_レ通_レ通_レ未_レ去_レ午後_レ体温_三十六_二度_一也_而
か_レ七_レ等_を離_レつ_、融_レり_、終_日無_レ聊_一幽_レ囚_中
の_レ人_の如_レし_、枕_頭の_レ施_法後_レ々_一患_レ矣_、今_日二_乃
二十_日無_レ風_一平_一穩_一軍_信條_約案_レ政_府と_一把_府
委_員今_レ衝_突危_レ杖_迫、池_水渴_す、水_道も_一
外_を引_入つ_、ん_も福_ふ、是_レ也_、

十二日

晴_夕刻_も驟_雨一_過、庭_中回_復し_、ん_ど
終_日病_苦存_り、小説_一耽_一讀_一、函_一被_一回_一者_一被_一

榎原製

云_一回_一健_一花_一紙_一後_一村_一山_一巻_一一_一、未_レ去_レ、
工_業任_命矣_、早_大作_用材_多、其_レ子_一
選_一舉_一、其_レの_レ中_一減_一、行_日外_刻夕_刻、
を_一交_一、二_乃廿_日の_レ後_一、
已_レく_、

十三日

雨_高い_、新_し、病_床と_一拵_一、難_レ波_レ理_一、
校_目も_一未_レ去_レ、且_レ物_を貯_り、去_日、
未_レ去_、旅_一、十_時出_一、

の行部今に臨む、出立し保内色遣と詠す二
時号の枝の作持久改遣つゝ題三つき大隈彦
を華族今館に訪を詠し、田路早大に
主客の四時物書

十四日

日

酒、文行也、ちつと感す、一時田中穂積、本坊回
付高田をたふ、松平伯も来り合し、今枝の
維持美道、本問題と幾演す、村山電一が
う味嚼一柄送つ来り、干後、お島武家

桂原

唯頼に到り、ハローボードの物南極探検実
況映畫を見り、夜に入り物路田原色
飯し、保内天ゆ、今また夜未潤あり
田中穂積と雪嶺とし山田初向の結果（と報
未）

十五日

唯、及上池花とて浮杖を三又く、四刻向
よ今秋園詠の満ちけ登記書我に理多
とて加刺す、遊舟と華下り、難波理年
大隈彦訪の心也、逢三定あり、正午一の臥
して心説を後あり、晩る降雨、

而、木林陽美材来候、筆二つ田記の
引出し由る田次へ交付、文行巻を
大江丸の句物と稱し、外出中、
一印、外訪、宛紙を等す、
刊離蟲三冊を寄りて来す

而、亀山書下三三、
本日、日本橋神田邊、
物と稱し、
物と稱し、
物と稱し、

出候、森田、
の送る、
切儀、
大隈、
し、
と、
渡、
件、

十八日

陸、木林脇美村より、町方大隈彦とてし、
今こころ、おし、返答を傳達せし、木林
一、印を、銀座を、贈る、来、楠山、雄とて、未
出、十二時、皆、投、送、答、の、趣、り、り、り、日本、工業
社、出、部、の、答、人、今、北、平、海、と、早、川、田、中、垣、取
大、橋、名、丸、正、原、増、田、鈴、木、山、と、澁、沢、三
時、三、中、書、河、林、安、後、来、功、田、名、と、贈、り
〇、木、林、脇、と、紅、大、隈、の、日、の、女、果、を、贈、り、
通、信、湖、也

榎原製

十九日

而、今、津、の、一、木、林、一、中、楠、山、雄、三、彦
出、と、お、し、木、林、脇、を、贈、り、河、内、の
在、否、を、問、ひ、未、だ、返、答、し、な、い、由、を、言
ふ、印、の、を、号、校、の、送、答、の、趣、り、り、り、協、議
一、切、答、復、持、負、日、を、為、人、折、換、く、て、未、だ
未、だ、この、送、答、の、趣、り、の、後、辞、任、を、申、出、る
こ、こ、の、内、議、し、て、お、し、中、林、部、に、轉、し、て、未
尚、未、だ、脇、美、村、来、訪、の、り、の、折、打、負、送、答、の、
就、て、云、う、且、つ、木、山、方、面、の、情、報、を、傳、へ、

二十日

快晴、電流も此夜も山田公之助の招致
を期し、さき、木村邸に寄り、山田
公之助、山田公之助、山田公之助、山田公之助、
未客を避け、園者、林、未客を招
ふ、午後一時早大、貴客、室、維持、
とひらき、功勞維持員十三名を
此日大隈公長十三名、山田公之助、
納えたる、出席、余、山田公之助、
席、就、山田公之助、山田公之助、

山田公之助

就、山田公之助、山田公之助、山田公之助、
無記名投票を以つて十三名を奉くること
とす、大隈公長の結果を得、就、
山田公之助の評、山田公之助の選、
を期し、此日早大、園者、山田公之助、
山田公之助の選、山田公之助の選、
大隈公長、山田公之助の選、
山田公之助の選、山田公之助の選、

二十一日

日

時、其時桂次郎とて来出、丸の色光と伴之
上、此之と散果、白木屑と物と燻心、日本
栴日時、酒飯七物、臥し、其説を
翻讀夜、入、夜来亦而、早大、是
廿七日評談、久令、栴を維打、其送、是の
通陸列、

二十二日

兩、其時、谷出と書、其説、其地、春、後
少、森、桐、手、法、高、六、八、千、子、お、茶、成

半、折、と、焼、り、来、る、名、城、好、江、江、法、元、を、来
出、至、三、冬、人、雜、録、と、業、一、七、時、を、移、す、永、樂
俱、生、部、と、し、来、簡

二十三日

時、楠、瀬、日、年、難、波、理、一、年、後、の、献、吉、大
石、理、田、交、之、来、流、日、法、印、刷、全、社、の、要
件、三、皆、平、の、事、物、多、く、去、り、可、話、と
去、る、大、石、の、法、に、依、り、西、村、行、花、に、余、の、押
是、二、枚、其、事、の、午、後、於、法、を、書、す、早、稿

大 田号の編輯維持及今の結果、就て報告を以て
2、新刊の案本第一号の印刷業の進捗を以て
久日老翁の報告を散策して伺ふ。

二十四日

昨、秋季皇霊祭、中林邦子氏の案に依り
其若二会主義の序文を草す、田舎
堀内氏の現る今の報告を以て、案本
第一号の案本を草す、中林：原稿を投ず
捧本七次不規則の云々を草す、新刊を

筆し正午より夕方迄午後九時と在り、
崎屋の帯祭を美術倶楽部に観望上
寺院由と散策して伺ふ。

二十五日

昨、五の忠一氏の為押巻石塚三郎、山田清作
武田尾夫、木橋、阪上、山田、江崎と
多く、田舎の報告を以て、案本の
を以て午後三時迄、田舎の報告を以て
可、夜来由

二十一日

兩回考級施徳に寄附するべき文書等を授
訂正、林崎美柳文の考院の改修一件、行
未迄、柿正雄に未書、大石地田、出状
を為す、午後光を伴ひて淡島、抄、産
の映意を見、秋後和氣らじ、菊、園、字、
都、本、其、時、も、栗、列、奉

二十七日

由、南、葵、音、出、回、考、級、も、日、本、音、樂、集、成、中

種原集

一、命を寄せて来る、林、葵、未、久、改、本、三、ら、一、更
流、大、石、地、田、七、音、集、の、三、菱、路、の、も、も、未、也
平、洋、金、三、ら、一、二、抄、毫、の、三、柳、酒、を、交、付、真
此、桂、次、中、出、東、二、へ、き、難、の、味、略、法、を、贈
こ、も、烟、山、專、大、中、の、も、も、近、刊、美、四、現
代、史、と、寄、り、未、也、武、田、尾、去、未、迄、神、心、の
柿、正、雄、も、淡、島、梵、堂、の、畫、を、寄、り、未、也
余、の、題、撰、と、請、ふ、一、五、丁、紙、力、も、紙、を、考
して、拙、毫、を、需、の、も、も、午、後、三、時、大、隈、分
館、入、評、議、員、令、も、松、七、佐、持、員、送、奉

ある臨席、昨日来会者七十八名、維多利亞
廿二名と互進、河津島前後より来会

二十一日

頃、並常時休、烟山を太中、遊心と名を
楠正雄の考の淡島梵雲の圓畫に横す
飛脚を兼す、其時柱次郎、賀田直次
未訪、直次中男時准の跡を少く、午後三
時、列り、おゝ八雲の遺品展覧会を
観、雜誌を後へ七、列り、

種彦

二十九日

所、之の者院問題、(七)も久江第一、江院
森崎来り、雜誌を兼し、山午、列り、久
一郎母来り、物を贈り、午後、甚と時を
す、維多利亞、中進、二、八、早稲田、大、
り、未出、中、亦、和、之、由、も、未、出、田、中、光、野、向、銅、像、
陰、葬、式、松、石、牧、村、

三十日

所、分、楠正雄に拝見、と郵送、乃、亦、宇
尾、也、傳、く、近、生、又、之、の、し、考、就、を、

午後外一七種紙と讀み、早大とて評議あり
送出し作掛多と報告し来り

〇十月

一日

晴、木柱、陽、美、柑、木、公、川、誠、也、身、振、八、
一、松、陽、新、報、社、も、来、志、銀、り、將、金、を、千、
田、引、去、す、午、後、停、ん、て、出、ぬ、神、田、の、名、集、を、河、
あ、七、永、城、の、自、筆、系、及、記、外、二、三、の、名、を、推、

種原製

七、切、く、金、四、十、日、村、口、吉、倉、へ、押、入、中、村、萬、吉、
し、し、中、村、の、言、察、設、工、技、術、の、家、由、田、到、り、

二日

晴、田、村、在、二、中、文、の、者、院、の、伴、の、つ、き、身、振、論、文、
の、揚、り、し、し、郵、色、と、清、山、等、一、千、田、の、由、は、額、
通、呈、三、菱、形、の、千、形、動、路、の、つ、き、更、々、
入、切、換、畢、り、し、其、の、中、に、一、千、押、是、を、交、
付、校、友、太、田、為、敏、山、陽、の、小、卷、と、持、気、鐘、
定、し、七、色、す、種、紙、を、寄、り、す、熱、海、の、ち、

城内と来玉、平山堂と寺西を去る日、
一色別荘、と名出る田中、と交付す、先
女を伴ふ、道合の社、押を揉み、一時以て
驟雨別荘、出取部と伊神^{たか}紙正、囁く、
教科書出来、とて、夜元の屋敷、と
あり、庭に入りぬ

二日

雨、小林、三、其、場、経、て、改、上、に、花、月、を、注、射、を
施す、村、上、日、出、金、大、く、と、音、母、を、終、る、事、

於、根、と、来、す、午、後、時、四、分、迄、其、功、自、盡、し、
柔、鞠、の、回、を、終、る、海、お、交、差、の、形、を、
外、出、つ、三、時、迄、を、伴、女、出、取、草、花、の、形、を
薬、を、才、を、贈、る、也、と、

四日

此、寺、崎、元、重、福、の、儀、来、取、不、用、講、義、終、り、
萬、念、千、元、と、交、付、す、賀、田、直、次、者、子、死、云、
白、香、典、と、見、高、品、為、持、者、と、午、後、一、時、早、
大、の、形、作、持、者、を、聞、く、余、は、去、と、云、

先非抄員今去也選卷一之次：理多
七名と選^{（密に）}今去記多之と無の
如し^{（密に）}二名と選卷一：坂原
正上原若造前造、望多、之と改
まら、三時由書、九系の漆山順次
梨果を^{（密に）}来、去谷川天漢と来也
也其の文意と心理分析とを寄せ馬と不
説、この大湯（牧通馬著）を朝讀

五日

日

明古傳く二三改禁表もを托去、光と久

漆原製

吹方、や、去女心誠也漆山順次：
河瀬三平、来訪、二三老友、
昔子、葛心、海教、
十五因清心、光と付、
上巻を能く物と、
山田清心、
山田清心の号、

六〇

明、大江第一、
一件、

本迄村山勢の助評を来す。不況この太陽法
以、午後神田の曲書店を訪ふ。二三の園也
を獲て悔つ。山本方店へ二十四日村山、十四
押、

七日

晴、朝来旋風を来す、小雨を衝て散葉上り
し。給仕の多り午頃一時頃、山本方店へ
来訪、又刻意が雑紙と来す、早稲家の
豊屋様と有す、村山めし申す。未也。

法

八日

晴、真房柱次郎、来訪、魁の味噌漬を贈り、浄
念寺、廣瀬の順、松葉を贈り、来す、楠
正雄、海老川、園劇向上会、十三
日初会をひらく。殊列、雑紙を来す、
日東都大文字屋旋風を来す、松葉を来す、
散葉文の巻、其の散葉、山本方店へ来す、
の四、其の巻を贈り、三十四日拂入、五十四日
平次、文芸部長解任の挨拶状判り、夕
刻中、野橋師外一人出、散部の件、来訪

九日

晴、山田御心より訪、山鹿、大波、延暦、紀念
冊子、之、手、稿、を、頼、ま、ん、朝、来、氣、基、大
段、の、紫、衣、新、九、中、并、二、神、田、大、改、の、御、印
刷、出、法、不、々、々、松、茸、を、贈、り、来、り、十、時
の、御、印、刷、令、此、の、重、役、令、今、二、臨、去、廣、瀬
の、順、大、文、字、局、へ、御、志、を、書、す、文、の、方、院
佛、金、仕、末、寺、の、御、堂、美、夫、の、翰、旋、を、漸
やく、御、着、看、為、り、金、五、兩、圓、出、金、を、御、志、す
此、の、御、御、心、御、志、を、是、る、可、宇、尾、御、志、す

榎原製

未、出、之、刻、本、島、御、九、日、に、物、を、持、り、來、り、
看、り、也、而、里、木、勘、花、の、御、志、す

十日

雨、日本、石、油、を、送、り、廿、七、日、通、山、田、
穂、積、号、校、の、御、志、す、今、日、一、月、上、の
う、ま、の、ま、未、法、の、代、七、寶、の、小、花、瓶、を、贈、り、村
山、電、一、百、一、十、使、す、二、の、十、を、托、す、
去、る、日、御、心、を、御、志、す、御、志、す、御、志、す、
史、記、本、里、木、勘、花、五、云、を、御、志、す

茂す、淨念寺廣瀬く海苔を貯る、楠
瀬恂に投筒子と托す、神田吉澤と未
乙、熊和と兼す、甚き山の中熊一と
茂す、服部耕石に問七村山亀嶽浮城
の印刻を托す、新江石塚島と對印味略
淡とより未乙、

十一日

小雨、木村昭田村之向寺既の件二件武田
丈出の部、任二つき来談、蛇と山の物也

榎原製

舟泊、萩原英一、島子訪托と贈る、物
保と兼す、所得税徴行到る、小品架の物品
を敷し理す、

十二日

日

晴、先を伴めて新倉に新築三城を訪る
物と贈る、中村忠と致し、武花也、彼の映
畫と見せ、均く、石舟中、程村宗八、舟
田割向々、舟の書数と教し理す、

十三日

時、于堀弘平とて中州葡萄一託貯、未
了、種お家ハ又次武田尾克木林脇美樹院
七列、十時演劇始、助銀と利、堀内久
姉と迎へて圓劇向上今の才一四現申合を
いらき花紋のうを協談し、評議久を招集
し、二年おを共、一合後余の合出、一七
評議久に託して一場の演説を考す、尚ほ
演劇中懇員を令し、彼後又扱、三付、
去説と為し、三時物書

榎原製

十四日

時、奈良の立回言、跋長堀内井花、とて石上
宅嗣千五十年祭典并、顕彰碑、除幕の
ある、此刊の(十八日)田村杜二、又託、
堀と兼す、堀内井花、二箇、又、出、演、部
とて、今、より、同、借、入、文、的、考、現、の、仕
末、二、月、七、の、歌、も、也、以上、以、後、亦、も、注、射、と
施す、其、野、有、三、と、未、決、産、葡萄、一、四、或
七、路、も、大、隈、侯、國、氏、葬、入、就、七、の、威
演、一、二、節、も、と、の、七、能、徳、キ、二、ノ、の、囀、

庶一投郵す、上海書報館^保長中華書局株
式會社古陸費達^白の鴻日情印刷分社、冬
観ニ来リ、三四の回者を賜ふ、玉籟詩箋
注古邱詩集注、唐順波碑本也。

十五日

所、文の考證借主仕主の五万回打、活字、
今朝木桶脚とせ、古心、大隈彦を治るゝもの
文の場合、長聞の方法と揃、十二の物巻
大改の小林儀、中々、松葉を込、来、

榎原製

光を伴、その日本橋、助、物と辨、その内、

十六日

所、朝来旅報を兼、す、小林儀、中々、遊、
寄、福田儀、其、梅、来、廿日、早大創立紀念
日、祝儀、数、に、松、の、刺、茶、と、行、ふ、の、道、懐
判、了、午後、理、知、友、歐、文、日、本、古、事、内、記、総、叙
を、主、案、し、七、時、を、移、す、

十七日

神嘗祭

明、和来政又日本書物記の総叙を以て引
續き之を案十数枚の形成る、午後散策神
田寺、扇二三の團也を贈りて以て物書
後亦書物記の総叙執筆、和の来を以て

十八日

小島後明、現代書物市中時益この翻子散を
伴ひ来り、宗家、清東の事を書きししを
己長子月戒也向上合の件二つ書き来り、
山書三七又来り、以て引つ、きき日本の

萬龜

榎原製

総叙を書き續け、和来十数枚成る、出
版も二三日後拂金受領、五時大隈令叙、
利、大隈令叙、大隈令叙、唯此令叙、臨
去、一場の追懐法とあり

十九日

日

明、森脇稲田英文家北川、を以て来り
日本を世界に紹介する、総叙を英文と書物を
る、二時、扇海説、今津八一、
雲丹、画、山利、東洋美術を以て

二十時をえをばりてツキを格時二年二二三
の物を勝かしてゆき、酒より直つてくハ公を送
り、

二十日

陰早大と野球切符紛擾の報告也。此の
暇部耕石武の尾左田村在二の中、其の
今日早大創立記念日につき切符切人の祝儀
祭を祝儀殿に折小路に拜す。今津八一
椿漱恂に問ふ。能くを兼す。竹三原厚大

桂原製

即ち早大の田を流るる香典を一一に及物と
送り来る。午後降雨、雨中数葉丸ビル。此
を勝かしてゆき、一葉の句を抄す。夜も寒
雨あり

二十一日

今朝もやまの雷雨あり。格時と暮す。十時よ
り出版部の役員会に臨む。高田一行十時
台湾に着を報じ来る。関方中堀内舟長
より来る。山田信成氏より、表紙に祝し

三橋出来二条田集と誘又日つ物支

二十二日

晴、内子をばめと修祿寺に入浴せんと思ひ立ち、
今朝九時家を出づ、元停車場に居る。其
店、因方院徳田名をばめ、十時の発車
表、時間を見れば、九時に此處に居る。漸く
其方、急行の三島に停車せしむ。此津下、
互行、三島へ戻り、豫定より、山北へ達す。
次十二時、浜取坊より、戴白の山中山嶽を望

榎原製

去秋大澄海より、風景よく、一時、沼津、着意を
自動車を働かし、三島に接し、三島神社を
拜し、亦乗合自動車に乗り、修祿寺に
至り、此間一時、二時止、菊原の別館に
投ず、此家亡き男の當り、病を養ひ、此所
より、内方、途遠深し、散策後、一浴して酒を
食り、早く臥す、其夜、二三の元うきを投

二十三日

時五時修禪寺の鐘聲又目を覚めて早く
起床今朝の冷初冬の如く朝露後者の
鳩男ハ巾着未始行の託すハ巾着箱の
校友より散策再び修禪寺の境内に入り
かく曇りしや世縁を去る位か巾着の
二條子佛像を見り村舎のあつたやうと
此所を弄い市中へ出て行く物を鑑む
阿つら一茶臼集を讀む時を移す車馬
ハはづきと出さ午飯を麦酒一瓶を倒
して睡氣を二元へ閉じて二時

榎原製

午睡を貪る、えぬまう一浴此の
就く今夜熟睡を得る

二十回

時公夜由ふと折るを散策涵の岸側迄
河を溯り三四所あり階の山景を賞し村路
に入り野あけの縦横をえり巾子大の
退屈法を一二の古物を鑑み中へ波
減り中の公味の真髓を探し一書あり
の夜二階の席をたふ便として下生

楳池の臨み如きあり映し鯉魚躍り風吹
あり二道のはかきと東家書り是より雅和を
筆して時を移す侍もあらず又内子と散策
あか電氣の書源所を訪りて切つて午後
後と侍人び浴後晩酌酒を呼
ぶ

二十番

明徳源寺着後如き事案の行方を見り
書し遊徳文苑春秋をとり来り朝未終

榎原製

探を筆し侍見の後内子と散策家書二三四の
物も購ひ後歩野あ非横の家を玩弄して
ゆき静かに書を讀み浴衣自ら手式個
の浴桶に今も閉却えん、靈文に河あり
のふ土湧りて流りて流りて感あり今
日土曜りのふせし東家をも圖体あり三十一名
才女、夜に入り謡歌を笑く、後後坊々
えん起きて老杯を傾く、夜未あり

二十番

日

今朝雨雷の、八時自動車と働つて三島
驛に到り九時十九分の汽車に投じて内
車に乗せられ、一時地車、田代亮以柿瀬
恂関屋貞信、早稲田大及村山竜藏、河
井安俊等も不在中、未也、並木受大、
卯元等も春秋社ふもも未也、早大の不祥事
未着着に到り、慥文考も副行して配布
し、このよをえられ、今からの騒動に乗し私
憤と漏らす七のちうとむん、小人原因り
この也、不在中の家もを理也

榎原製

廿七日

昨日、追筆一篇と筆心して文藝春秋社に
送らす、尚お次まもも未也、山陽細吉の長
篇一稿も送らす、早大をも紛擾に關する
報見せられ、村山竜一中に一書を送る可
午後、早大分館に到り、文の場合の講演会
に臨む、英田駐在、黙然山、官津島壽一の
世界経済の動き、就て二時三十分、
講演をせしむ、未也、早大、新河松井
郡次らも未也、日本石油、本重の

肥田録

二十八日

晴。徳田宅を去り、押見三枚遊子、稻田溪
余が日本邸の爲り、又筆、以て稿の奥文
及譯文の多しとて、お春、未林、師美、相統
乙利、大、小、ら、回、者、彼、の、堀、内、堀、老、に、是
石上宅、副、卿、一、冊、貯、集、り、了、日本橋
三、三、散、策、丸、長、の、回、者、と、婿、ひ、外、家
に、役、し、れ、物、く、る、在、台、湾、古、柳、爲、垣、并

榎原製

真山桂次中へ書きたる。夜来雨あり

二十九日

晴。伊長泰菴の訃聞あり。宛紙を兼す。武田
尾左出版部の決り、亦こゝへきり。法、坊、上、所
花、目、の、注、射、を、施、す。市、倉、法、主、堀、内、林
病、に、關、す。伊、長、に、悔、れ、も、あ、り、す。不、久、江、此
一、早、法、師、と、宇、都、堂、鼎、來、訪、學、校、の
駮、援、問、題、う、り、き、三、時、多、く、直、り、徑、道、を
聽、く、出、頭、部、と、し、三、百、四、借、入、報、知、社、の

中四十畝お伽よの陣列するを以て余り法
流の英符を校す、田中穂積を以て親
辰幸利を、関太中を以て未也、新河小
山三八を以て梨果一函利未

三十日

頃、よ教育勸修帳が満四十年記念日、丁
早大の份獲未れぬが、思慕の悪化動もま
ハ教育のを懇意に遵守かんとも、勸修に對
し殊に感慨深し、前月郷里兵庫の各校

榎原製

より拙毫の扁額を需ち今日勸修とて字
を遺人が其需め、應えんとす、是山素三
も者物代三千田後す、小森望三、杉本旋
松を兼す、徳人がえを付せ、松生を
を放棄、松尾梅上の、以降物故文豪
の遺墨を長と見え、亦高松の、奈に、
辰と見え、丸善の喫茶店、千崎と七、
、終極を兼す、終極、西八

三十一日

る凡、金工令田自凡の二程へハ、カワタ
とおろ来り来り、汗内る道道号枝の
ニ付堀儀の方耳接、堀田讓がイドバ
ツツに挿入凡、葉宮と云ふこときし、其の家
花の給え、こもし、樹下舟と出して送擇
と時を移す、早大と云ふ、唯お多
（吾等の通條列る、村山電一、中一の務者
高橋貴水、水、榊、日、年、く、給、今、す、
午後能解と著し、と多く時を費す、四時
五十分方田、此、其、甚、清、も、し、仰、着、こ、つ、き、こ、一、六

榊原製

時高田中、電流を通す、未田宅セザ、と云
甘、間、七、ま、く、迎、へ、の、為、の、伊、東、坊、く、赴、き、こ、も
出、給、部、員、才、ま、り、報、告、す、中、央、騎、頭、才、最
の、群、衆、高、田、の、下、車、と、待、ち、ま、り、あ、り、し
の、牧、師、由、大、臣、を、ま、え、と、誤、認、し、駈、接、中
高、田、の、免、か、ん、て、り、作、生、令、下、令、紀、こ、の、為、ら、つ
き、今、夜、の、外、治、の、都、會、と、報、告、す、あ、る、分、森
傳、等、の、使、候、を、る、者、其、の、生、の、真、似、し、て、こ、の
給、接、を、生、い、な、り、し、報、告、を、高、田、の、後
認、し、た、ま、き、こ、の、其、の、一、福、也

〇十一月

一日

晴武田尾吉山田清心中田徳吾来稿
山田を復巻今分の醒本と多く、谷根野
援三つも革政と名とし、或る方面も未
出、固者致帰今分も未出、十二時登校総長
其他と市面より所題を減し、一時も進捗費
今に臨み、谷根野中分も未出、或る方面も未
出、先あり、市面より所題を減し、一時も進
歩を減し、捧赤七、扶亮三、四枚交付。

徳原製

〇市印刷の平定堂美文、〇日市士五湖
ぐりのりも約す

二日

日

雨、今田富原来稿、永楽の徳利を双と贈り
、能保を兼す、今分の市面の休張を利用
し、印刷部の人々、社田社の幹部来遊、公
を催し、市士の五湖徳りを計画し、午
後一時市面より、今分、各地四人、一行
十六人、山田城道者、遊覧切符を

行丁西極便利也。北近畿一切の車馬賃
有泊おを合七十八日。一昨四十分
表神府体迄左行先の山中湖。至る
と夫朝来の雨漸やく晴る。帝殿体ら
初下へきこと。一行中今世の長。余
と大橋とさう。四時十八分帝殿城に下車
と九時。自動車。日乗山中湖に向て
是る。北湖六里全。龍波峠。長う海抜
三千九百尺。澗窟四閉頂上。も漸く
西筋まう長望。望可也。峠を下へ。山中湖

穂原表

眼前。長湖五時。湖畔の森亭。授
す。洋館日本館。此に休ら。あまの。後休
り。窓を開へ。長望。ま。富山。嶽。足
尺の間。主。庭中。の。よ。と。え。の。勿
休。す。北。の。針。差。村。合。の。皆。を。費。ハ
ル。此。流。涼。の。景。一。程。の。飯。味。あ。る。一。行
と。此。の。境。お。中。余。活。活。の。中。心。と。さ。う
淡。美。お。の。ま。う。十。時。皆。寝。と。此。く。余。此
片。と。千。九。十。に。利。り。麦。酒。を。飲。け
十二時。此。の。一。意。ま。大。暖。炉。を。

焚料薪を用ひぬる余の志を得たり
余の生時代登山の時須走口より道を
採り、今も途次浅間神社の前を過り
即ち往年一拜の後、舊跡登山の途に
き中公休と云ふ一宿し、今も此を想ひ
起す、事ハ四十餘年前の事也

三日

明治卅年

の朝、六時頃起床、朝食を促して自動車
に同乗先づ山中湖を賞し、疾走浅間神

榎原製

社に到り下車、一回参拜、此境志移天を
し、瓜氣清古より一人を思ふ千古の無
：馳せしむ、此社に遠久の昔し、望み多し
と云ふ、千二百年と行くと云ふ、古杉の大樹
あり、大華表大石盤等、味ふへし、去田口
より登山す、今も此社を拜し、境内に
立ち、才一歩を起す、道あり、冬参拜の後
赤乗車、船渡り、到り川口湖を望む、此湖
午後舟を起し、遊覧し、夕べに宿に
を略す、赤乗車を馳す、山林原の平原に

の榎樹の吹抜生し一理皆縁の交と死又
こんをち木と存して樹海の石あり一勝区
より北附山と風穴と稱する一各區ありお
人多く此區を掃る余等も亦下車二所
許を歩し塔岩の敷乱せる道を辿り
行く道のおる所に板舎あり梯子を
懸け四降つて岩穴の入口に達す此穴
皆る燭を携きて入る余日本服を着し雨
露滴るの穴内に入る不便を感じ入ら
ずし止む非他穴内
表平巻紙

榎原製

して出づ、赤車を此せて赤池と云ふ所へ下車
時、十時三十分、直ちモーター、ボートに
乗り、特近湖へ渡り、北湖ゆ外人の喜ぶ
所と云う、外人を待つ所の旅館を湖畔に経る
して一勝區として宣佈す、然れども湖の
規模甚だ小、且つ湯気の為め湖を夜へし
風致舊の如くさうさ、ホテルのある区、舟
を客の目の崖路を攀平ちホテルに入るこ
れ前迄外人の喜ぶ又旅館也、一回こゝに
洋館を喫す、北附山にパラマ甚と認め

の長望に在る高地にて起る道あり、路狭
りし時と見え不便あり故に行かま
し、西の喫飯後六ボートに乗り去り池尻
り又自動車と馳せ根場と云ふ高き列
り下車す、此地は西湖の畔の村也、互に
ボートは西湖に渡り、北湖視眺するんば
も風政あり、吃北白雲亭嶽と云ふ又湖
上に雄姿を冠せたる一貴族あり、
湖の一端に桓の設備をえり、水力を電氣合
社に北の山と云ふ所の川に湖に通す

榎原製

の設備をすることあり、舟多し、船は前山
に達し、見えし八所徒歩あり、長渡り
あり、途中山岳穿ちたりト子らあり
大正洞と云ふ、見えを過り、板付坂を下
つて長渡り達す、こん川に湖畔の村也
ボートに移り川に湖に渡り、北湖
ハ五湖中最も親換の大なるものあり、凡
そ五湖に冠せし鶴の島の景あり、美
也、船津に近く宮家の別業あり、白雲
亭に包まんたる高嶽、如く母姿も現し

此の名道の風景も雄大味を添く一日を
快気と呼び、女も、此の湖の附近にワセ
バのグラウンドある等々も行き、又の
能ハヤリ〜ハ遊戯也二時四十分船津
に着見え、亦自動車と駆り吉田を
経て大目：達する途中、谷村町を過り
此地、繁敷のなるを甲斐又編集敷の
地なり、沿道河が奔流、水車を設く
る所多し、皆桂川の舟も川の岐
なり、甚だ風致あり、其の山麓上りあり

榎原製

の岩下より一勝区ハ特に目を眩かし
橋上に自動車と駐め、暫く其の
風景も玩心、低細去る、結いさし
あり、大目野：達し、四時十五分迄
新宿：向つて、其の汽車時刻五時四
十分迄、多くの時間を剩す、依り猿
橋の風景も、又大目野：戻らん、ことごと
満し、又自動車を御行、行く、僅かに
十八分を達す、橋上より深潭も下瞰
し、橋畔の碑も、淡々、四十五六年前

北栲町の茶店に一杯を傾け、往時を回顧す。大目へ度り、甲州産の柿葡萄をこしらへて家内を賑はし、汽車を待合せし投ず、車中満員余外二三僅くは席を得、一行多くは停立、為め、晩食を為す能はず、八時二十分、新宿に着、重家へゆくと、夜号甚しく酒食後互に臥す。

四日

晴、小久江成一子訪、十七日小久江の三女結婚

榎原製

の式：祝ふも、古柳馬場へ来て甚く喜ぶ。産の湯をいそぐ。所得税四万五千九百圓納付畢す。國劇向上会へ来て、七日、芝居谷七波邊、慶祝会との遊覧あり。午後、遊覧五湖の遊記を兼し、時を移す。南米島、古く、冷平三郎の消息列記、入江口、基洋行告おの、為め、本訪、多摩聖蹟、記念館開校式あり、内洲。

五日

晴、山田清心、今日、市原、龜山、車三本あり。

下関の房の款信大り、酒造(重)の如く、山
陽の書協館敷点と高らし、まゝ、鑛金を結
ぶ、電法料及び押納付、銀あり、金三万
圓引出す、短帳を兼す、十時外出、日本橋
迄、物を購ひ、午時の後、ゆき、大分、早
急、八一の虫利、又早大らし、来、江口、基成
と、夜外、遊の途、上る。

二日

時、本林、脇福、田、讓、廣、井、一文、々、来、橋、政、上、弘

榎原製

花、あつ、注射を施す、廣井を、簡、里、古、心、乃、流
す、上、向、永、永、次、々、来、者、中、奈、新、井、新、大、り、
、乾、秀、典、を、贈、り、来、り、三、時、上、向、新、卷
軒、の、依、久、間、一、追、送、八、心、心、心、席、上、一、場
の、追、憶、流、況、を、着、す、肉、子、克、を、併、せ、歌、鳥
、夜、花、の、観、割、く、り、

七日

時、村山、秋、浦、来、訪、中、田、徳、吾、の、生、樂、物、つ
き、一、二、の、報、告、を、ち、り、と、さ、る、料、治、朝、心、の

如分りて本年洋書家来り候十時出候御
三朝り計年を秋分書一午後物書之
校の積り未回復に到り候小久江成之、
祝物切手十山三紙と出す、午後散策
三紙橋上陣列幸四成友北回とせ来り日
本の圖書数る然の陣列とせ、備に幸四
備に在り、只の返物を能く、切手復上座に
入り、井口具成、田田と有り、物と候ら
ぬ、住友院に、うし来書

八日

昨、喜内とて今夜の如く、今、号校
動つとき由議せんと、雪候あり、流す、度井
一北紙新報紙上、余の隨筆を三ヶ月
に亘り日載せんと、こんと余の如くと
差あり、毎日の執筆の致めあり、日
く、えんご、数十年、筆を研せり、然り、紙
を換ふせば、えんごの材料にあり
べし、えんごを新報に、校き、香し、原
福と充つる、流し、可なり、と、候る

リ先づ辛卯の年ある故十冊の筆に録を授
家一十則はくうを得比る故の
授ふかば優に百則を得入す歎す
べし此身は余が四五回發行の地筆に
漏んぬるとす未十日とす十日筆
族へ録るに於て筆を授一作品は贈
深陳列展観のありゆに利は任及任托
今此、此、之満期供托を引出す付
一書と書す、雜紙と筆す、早大と
速達書札利、高白紙長差支あり如多録

榎原製

の今を止し、四冬税務署を以て現任長
即お積の年續一云々、付未出、河内井
野後とす未也

九日

日

而早大の給糧者中、此に別の油煙、うも然
後、着、を、此、由、徳、全、致、難、負、と、大、限
不、海、中、今、し、七、吉、休、為、生、以、未、の、願、未、こ
去、の、旨、に、海、つ、七、報、生、あ、り、余、も、情、に、臨、ん
て、聽、つ、す、平、山、中、を、も、り、方、画、を、受、主、目、録

一舟到来、午後換去時を移す、倦んば出游、并
山三紙、陳列の幸田成友外四、この出来の回
方と見ら、永く間、貞一の遺子長去印、前夜
の謝礼に未だ、

十日

晴、中田湯屋、日流、村山秋浦山陽詩情
の題画を預ふ、乃ち也、と返す、秋浦、
梶田半古画、僕、前十二枚を贈ふ、僕、三十四
也、午後教養、神田の乞鉢、二回、書と贈

榎原製

以、九、必、招、魂、就、境、内、を、お、と、切、く、は、丹、美、
宗、吉、と、し、未、だ、

十一日

晴、河井、委、後、も、功、向、上、合、ら、う、を、返、す、十、時
の、印、創、の、重、後、合、と、臨、む、物、長、後、持、お
を、能、開、し、紙、紙、多、紙、上、に、連、載、す、と、き、紙、料
を、換、し、七、時、を、務、す、五、時、を、大、隈、合、館、を、
き、回、者、館、協、合、の、理、を、合、に、臨、む、と、及、下
り、行、打、合、井、も、出、席、し、二、三、規、則、を、論、議、し、

十時敷合、峠崎正法くく日蓮文物を贈らる。

十二日

時、植木を根き所前の松二千入とす
合田末梅、雜抄を翻して紙（？）定めんとす
池兼村料を授受す、午後敷葉本心下
名の書牒を活めと二三の回考と購めしゆ
へふ、物を転心理し七時を移す、夜即ち附す
べき回考を授出す、

榎原製

十三日

時、丹兵衛平柿敷日年と郵志を授受す、村山
物、江武田の尾末度井一木林脇田村寺
末梅、大合の人法衣角、唯山陽の公書
幅を授く末く示す、平山末くお存す、度
井林脇オと文の書役の事を梅敷し午迄
を其のす、植木を一人のりつ、きま
り松の千入を為す、建石 日ま坊五軒
町廻親合、就し梅敷してある、新河吉
田和男、梨子一函と定めて来る、梅

と兼て、三時(三)元を待たせ散策せしむ
其に候し七時(三)同方候場を(三)未と
早大騒動罷去

十四日

明渡の昔お東原野野を運漢の敷を
受け腹帯に負傷、偶に外出中、頻りに
おに接す、日本橋の御に抱を捕ひ甚兵衛
に候し七物(三)光五川に作茶を候し
為め平後家(三)報に此郵船今代よ
り未、牝、廣井一関大ら、川上法、扇、其、傍

榎原製

不用、同者ニ夕山、麦、印の者ニ文、(三)文
計、

十五日

明、朝、未、未、を、候、(三)関、下、(三)を、茶、室、(三)迄、
半、日、休、候、の、候、に、連、載、(三)を、(三)隨、筆、材、
料、(三)又、(三)指、定、(三)す、(三)不、(三)あ、(三)り、(三)日、(三)本、(三)回、(三)迄、
候、(三)向、(三)し、(三)未、(三)也、(三)小、(三)林、(三)羽、(三)麿、(三)高、(三)左、(三)と、(三)よ、(三)は、(三)以、
草、(三)し、(三)未、(三)也、(三)を、(三)候、(三)也、(三)其、(三)の、(三)北、(三)代、(三)新、(三)候、(三)の、(三)以、(三)え、(三)新、
候、(三)と、(三)朝、(三)七、(三)林、(三)地、(三)七、(三)候、(三)出、(三)し、(三)七、(三)時、(三)と、(三)候、(三)す、(三)

玄圃前の松漸やく射入泊る根逐に土を運ぶ
て土坡を修め、松の枝に枯と生れ多し根逐に
其生の筈根と踏り松根を犯し、此が原因と
認め、母の根と切り出すに松南骨が折れ此
松下に八母と枝ありすと感し、首折の
谷慈順高と報し、其母品三とて、遂卒
と貯る。

十一月 日

成園大なり、此の引つ、き、随養の程

榎原製

と授け時を憂す、坂上弘花を注射を受
く、大原宇尾の樹と難味の味、吟詠を寄
せ、年々、木二日、内森久寛に、根を三日、日本五葉
の樂月、中田初平、其流、松根を、其、
午後光を伴ふ、出浴、中泉木分の増上寺辰
院へ、もと、ホウ、く、雨降り、出づ。

十七日

成園部耕石大江乙東門、其、森、跡、其、
村、馬、井、一、跡、を、素、極、難、保、と、著、り、す、午

後日為人宛り長井重保の画幅并に
果物と贈る。出政部の公事奉り二月迄
廿一と文の場合の解散問題より是の場
合時方にて是と。夜中又江村一三の結婚式
に招かん。東京今彼に到り、余祝辞を原
杜未成主領の初に言葉とす。田中光顯の
銅像建設の物と。記念冊子、向といふ
事もある。

十八日

榎原製

町榎本屋二人来り、行村宗八の功
七棟敷物、ある。浮刺場物、花記の
印刷成り、更らる。印刷二顆、刻を
聞たり。ある。随筆の續稿と接し
前日来の口随筆材料と、収め、能
録三十冊貸出、村山約し。能来、
能も、榎本屋美術来り、廿四日、一
通知、出遊上の、浅き、散步、出
中、一夜の、ある。物、接し、ある。

十九。

頃今高尾原山の清心寺に依り、遊と云明
書院の年形一件、(のき)田村社二印、川久
保法と依りて来り、小林十平(核与)又の
協会の改え能治欲申、権高ニ付、其核
花形の牛込支店の手塚有造、核抄ニ来り、
午後能和と兼り、又核有造と兼り、池島
の核柑の年入を考し、川苔を核と施す、
園方核柑の編纂部と兼り、速達、郵便
としての日産核合を聞く、核有造

榎原製

二十日

而、便利を以て複製本長崎紀史二冊、能本
版部耕衣、(のき)川合の古書、(のき)余の
為名の陳列を考ふ、乃ち二行出法を説し、
其の原書を出し、(のき)亀山素三と兼り、徐三奈
の篆字聯幅を核、(のき)田村神会、改下の為
と兼り、(のき)田村協会の年産核合をひらき、
(のき)田村改印時の改法と交り、(のき)其の兼り、
久間と一進、(のき)遠人、(のき)席上、(のき)余の演説の字を
(のき)其の兼り、(のき)田村社二印、(のき)書院の年形一件

此のキコ年功

二十一日

雨今の市原来候。湯川真治より梨果一
画到來。武田信玄より、昂印長巻、
道をひく、とて、敷設工事畢之、冊宗宗
友より、目出、真崎果、宗友、出札を
送可、村山由、柳より、来簡、巻物二十
枚、巻を承入る、千形一件、この巻田打
雪紙を承入る、来、嶽、已候、安、

榎原製

在爪哇西打行花と托せ、爪哇
哇産合拍敷紙と器り来り、先以余の
揮毫を巻、
多亭に於て所内有志の親、
余も出席、山嶽、
田津尾より来書、

以下全て

白紙

榎原製

